

編 集 後 記

「総合リハビリテーション」も第9号をむかえました。特集をふりかえってみると、第1・2号で片麻痺、第3・4号でリウマチ、第6・7・8号で対麻痺のリハビリテーションと、医学面に重点のおかれた特集がつづいたので、この辺で医学面以外ながら深くリハビリテーションにかかわってくる問題を考えたいということで、この第9号では職業的リハビリテーションの特集が組まれました。

職業的リハは、リハにたずさわる医師およびパラメディカルにとっては必須の知識であるにもかかわらず、現実には職業的リハとの接触が、ともすれば、SWにまかせきりになりがちなために、この面に関する知識が乏しくなりがちなのは筆者自身が自認自戒していることであります。おそらく多くの読者に御参考になる特集となるであろうと期待しています。

ところで、わが国におけるリハビリテーション行政の統合とその一貫化に関する提唱が、多くの識者によってなされてから、既に久しいのですが、未だにその実現を

みるに至っていません。今号の職業的リハに関しても、狭義の職業的リハは労働省の所管であり、前職業訓練までが厚生省社会局更生課の所管のようであり、行政の門外漢からみるといささか奇異の感をまぬがれないところです。

現在、病院において行なわれている、発病・受傷直後からのリハ医療は厚生省医務局の所管、身体障害者更生指導所で行なわれている late stadium のリハ医療は厚生省社会局更生課の所管、前職業訓練と職業的リハについては前述のとおり、また、心身障害児に対するリハは厚生省児童家庭局の所管、これには教育が当然含まれるので教育に関しては文部省の所管、更に老人のリハは厚生省社会局老人福祉課と老人保健課の所管ということで、その複雑さには困惑をすら感じます。この複雑な行政機構を整理統合して、リハビリテーション庁なり局なりをつくり、有効適切なリハの施策を行ないやすい体制が1日も早く実現することを心から念願するものであります。(横山 巖)

○ 編集顧問(五十音順, 敬称略)

天児 民和, 大島 良雄, 小池 文英, 砂原 茂一, 津山 直一, 水野祥太郎

○ 編集委員

土屋 弘吉, 上田 敏, 明石 謙, 大川 嗣雄, 大井 淑雄, 荻島 秀男, 横山 巖

○ 編集同人

赤津 隆, 青山 孝, 今田 拓, 今村 哲夫, 江口寿栄夫, 小野 啓郎, 河邨文一郎, 金久 卓也, 兼松 英夫, 五味 重春, 沢村 誠志, 杉山 尚, 中村 裕, 野島 元雄, 間 得之, 長谷川恒雄, 橋倉 一裕, 平方 義信, 三島 博信, 山内 裕雄, 渡辺 英夫, 飯田卯之吉, 遠藤千恵子, 小川 孟, 加藤 一郎, 小島 蓉子, 笹沼 澄子, 鈴木 明子, 陳 慧玉, 野本 卓, 高田 玲子

— 次 号 予 告 (1 卷10号) —

巻 頭 言	すまいとリハビリテーション……………東大建築学科	吉 武 泰 水
特 集	身障者のための街づくり	
	障害者のためによりよい生活環境を……………日大建築学科	野 村 敏
	心身障害者向公営住宅の現状と問題点……………東京都老人総合研究所	陳 慧 玉
	市民運動の報告と展望……………宮城県肢体不自由児協会	菅 野 鞠 子・他
	対談：街づくりを語る……………国立身体障害者センター 東大リハセンター	永 井 昌 夫 上 田 敏
総 説	脳性麻痺の手術療法—フェノールブロックを含む—……………高知県立子鹿園	江 口 寿 栄 夫
研究と報告	促通肢位と反応時間……………東京都神経科学総合研究所	中 村 隆 一・他
	吹田保健所における脳卒中リハビリテーション・ クリニックの運営報告……………大阪府立成人病センター	小 池 晶 子・他